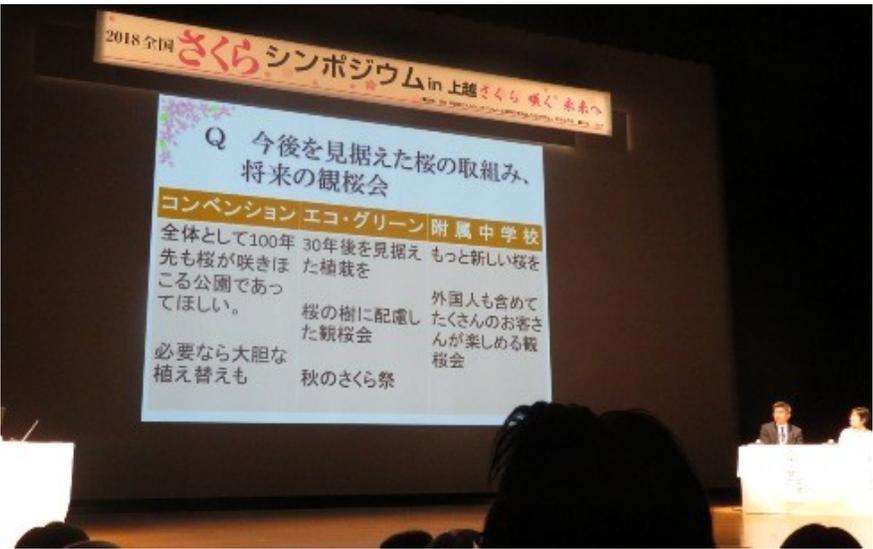


全国さくらシンポジウムが12日、オーレンプラザで開催されました。同シンポジウムが県内で行われたのは今回の上越市が初めてということでした。

今回のさくらシンポジウムのテーマは「さくら 咲く 未来へ」。高田公園の桜を中心に据え、全国に誇ることができる桜がある上越市の魅力を再発見し、全国に発信するいい機会となりました。

オープニングアトラクションで演奏された保倉川太鼓、聴いたのは今



上越市の魅力を再発見し、全国に発信 全国さくらシンポジウム、県内で初めて開催

回で2度目ですが、リーダーのスピーチを含め、とてもよかったです。初めて聴いたのは増井健一さんの素敵なバイオリン演奏です。こういう人が身近なところにいるとほうれしいです。

記念講演は三遊亭白鳥さん。「今回は落語はすると言われた」そうですが、講演の実際はまさに創作落語風で、爆笑に次ぐ爆笑でした。高田の町の今昔、桜の魅力、方言をまじえて語っていただいたので、楽しく聴くことができました。白鳥さん

の話に出てきた岡田橋のそばにある1本の桜の木、ぜひ見てみたいと思いましたが（裏面に関連記事）。それにしても、白鳥さんの人生もまたドラマに満ちていて、苦労された落語家であることをよく知ることができました。



【カキドオシ】 シソ科の多年草。漢字で「垣通し」と書きます。名前の由来は垣根を通して侵入していく旺盛な繁殖力にあるようです。花はうす紫色。葉はもむと強い香りがします。

パネルディスカッションは「100年先も元気な桜のもとで」。日本の花の会の和田博幸さんをコーディネーターに高田公園の桜の現状とこれからのについて、上越コンベンション協会の西條さん、エコ・グリーン会の青木さん、上教大付属中学校の3人の生徒さん達で語り合いました。

最初、中学生の参加でどういう展開になるのかなと心配しましたが、未来を生きていく若い人たちが語った「外国人も楽しめる観桜会に」などの新鮮な視点が注目されました。私たちの地域のさくらは雪の季節が終わってから咲くさくらです。さくらは厳しい冬の終わりと春の到来を知らせ、私たちに元氣と笑顔を与えてくれます。上越市内にあるさくらをもっと広め、100年先、200年先になっても咲き続けるようにしたいものです。さくらの持つ力を改めて知ったシンポでした。

「春よ来い」の第5集

新潟市在住の地学研究者・大野隆一郎さんから8日、第500回を迎えた私の随想、「春よ来い」をまとめ

た冊子を作成して、送っていただきました。あまりにも早いでびっくりしました。冊子は、第401回から500回までをまとめたもので、今回のものが第5集となります。私がブログで使った写真のいくつかを文章に添えていただいたほか、表紙の次の次のページに季節の風景写真、裏表紙には、身近なところでお出合った動物たちの写真、動物や鳥などの足跡などを使ったデザインがあり、とても読みやすくなっていました。私にとっては、世界で一冊しかない宝物となります。



はしづめ法一の活動レポート

No.1854 2018.4.22

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五〇二回

足を鍛えて

冬の間、柏崎市内の老健施設でお世話になっていた義母が自宅生活に戻りました。といっても、しばらくは義姉夫婦の住んでいるアパート暮らしですが……。

先日、信越線安田駅の近くにあるアパートを訪ねてきました。「ごめんください」と声をかけて、義母の部屋に入っていくと、義母は部屋の入り口付近で、座イスに座っていました。ほんの二、三か月会っていないだけに、義母の頬はだいぶやせ、なんとなく老けて見えました。

何でこんなふうに見えるのだろうと考えたとき、最初に目に入ったのは髪です。義母は髪を短くカットしてもらったばかりだったのです。義母によると、ステッキカーにつかまりながらも一人でN子美容室まで歩き、カットしてもらってきたとのことでした。

アパートから美容室までは三〇〇弱です。足腰が弱りつつある九三歳の義母が、自力でこんなにも歩くとはびっくりでした。それも交通量の多い国道252号線を横断したのです。よく渡ったものだと思います。

美容室にとつて義母は昔からのなじみの客だったのでしょうか、義母はお金も持たずに行き、髪をショートカットしてもらい、頭を洗ってもらったそうです。代金二七〇〇円は義姉から持つていってもらったようです。

義母とは老健施設で会って以来の再会でした。「施設での暮らしはどうだったね」と訊こうと思っていたら、こちらの気持ちが通じたのか、義母から語り始めました。「施設はご飯がいいね。それにおやつが楽しんだ。ただ、決まりが細かすぎるのがどうかと思うけど……」そう言っていて、施設内で「歩きまわる」などの運動が自分の考えているようにはできなかったことを教えてくれました。

運動が思うようにいかなかった分を取り戻そうと、アパートに行つてからの義母はとて

も頑張っています。

ステッキカーにつかまつての散歩は一日に四回もやっているといます。アパートからすぐ近くの安田駅まで行き、郵便ポストをぐるりと回つて帰ってくるだけです。距離的にはそうたいしたことはないのですが、それでも一回当たり、一七〇〇歩前後も歩くそうです。

それに、部屋に置いてある健康器具の「ペダルこぎ」もやっています。私たちが訪問したときも、話の途中からペダルこぎを始めました。たいがい一回当たり一五分ほどぐるぐると回します。これを一日に数回やっているとのことでした。

この日は義母が長年住んでいた自分の家で、「しだれ桜を楽しむ会」が計画されていました。お昼前に義母の家へと車を走らせました。義母が私の車から降りるときは、まだまだ達者という感じでした。

お目当てのしだれ桜は、義兄の長女が生まれた翌年に植えた木です。空は薄青く、薄い雲が流れている。近くの田んぼではトラクターの音が賑やかで、カエルもそれに負けじと鳴いている。そんななか、樹齢約四〇年のしだれ桜はちょうど満開でした。

会では、義兄夫婦などが用意してくれたコゴムの胡麻和え、シイタケの煮つけ、寿司などを食べながら、話がはずみました。「桜のそばにあるモミジ、ビールを飲んだわけではないのにずっと赤くなっている」「近くの道を走るカモシカ姉さんのランニングコースがわかった」など楽しい話ばかりでした。

義母は義姉やその連れ合いなどとともに食べ、「きょうは、なんと腹すくのい」と言っていました。三人の子どもがそろつただけで食が進むのでしょうか。それと、「ペダルこぎ」が良かったのかも。いいやんべです。

三遊亭白鳥さんを励ました桜の木

先日の全国さくらシンポジウムの際、三遊亭白鳥さんが講演のなかで、西城の岡田橋のそばにある桜の木について感動的な話をされました。記録はとっていないので、少しずれているところがあるかも知れませんが、大筋は次のような内容だったと思います。

(噺家の道の)仕事がいまうまうまかなくなって、高田の町に帰ったとき、岡田橋のたもとにある大きな桜の木のとこで酒をいっぱい飲んで酔っ払った。どうしたらいいのか悩んでいた。酔いがまわって夢だったのだろうか、桜の木の根元のところから、ぶわーっと風が巻き起こり、花びらがばあーっと舞うところを見た。そして、どこからか、がんばれ〜という声が聞こえてきたのだった。ふと、目を覚ますと、桜は散ることなく木の枝についていた。だが、不思議なことに、酒の入ったコップのなかには花びらが浮いていた。

白鳥さんを励まし、元気を与えたというこの桜の木を見たくて、現地へ行ってきました。地面からねじれるような形で幹がいくつにも分かれ、枝の一部は青田川の近くまで伸びています。堂々としていて、じつに美しい桜の木でした。木に触ってみると石のように固く、ごつごつしていました。そばにいれば、なんとなく親父のような、どっしりした存在感があって、ホッとします。来年は満開の頃、この木を見てみたいものです。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月11日(水)	4月18日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.047	0.043
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.050	0.053